

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2016年8月10日
【四半期会計期間】	第43期第1四半期（自 2016年4月1日 至 2016年6月30日）
【会社名】	パンチ工業株式会社
【英訳名】	PUNCH INDUSTRY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 C E O 武田 雅亮
【本店の所在の場所】	東京都品川区南大井六丁目22番7号
【電話番号】	03-6893-8007
【事務連絡者氏名】	取締役 C F O 兼 管理本部長 村田 隆夫
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区南大井六丁目22番7号
【電話番号】	03-5753-3130
【事務連絡者氏名】	取締役 C F O 兼 管理本部長 村田 隆夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第1四半期 連結累計期間	第43期 第1四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自2015年4月1日 至2015年6月30日	自2016年4月1日 至2016年6月30日	自2015年4月1日 至2016年3月31日
売上高 (千円)	8,591,976	8,658,183	36,755,858
経常利益 (千円)	438,384	330,237	1,666,659
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	335,442	207,618	1,249,196
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	239,853	341,434	142,458
純資産額 (千円)	14,235,106	13,519,746	13,999,446
総資産額 (千円)	28,114,762	27,584,143	27,337,639
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	30.33	18.77	112.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.6	49.0	51.2

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

経営成績についての状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、弱さがみられるものの、全体としては緩やかな回復が続くことが期待されております。米国では、金利、原油価格、ドル相場等の影響が懸念されるものの、景気は引き続き拡大基調にあります。一方、欧州では失業率や物価の動向、地政学的リスクの影響等に対する不安もあり、景気は低成長にとどまっております。中国は安定的な成長は見込まれるものの、不動産価格や過剰債務問題を含む金融市場の動向等によっては景気が下振れするリスクもあります。

また日本経済においては、雇用・所得環境の改善が見られるものの、個人消費の伸び悩みや海外情勢の変化への懸念から為替相場や株式市況が大きく変動するなど、企業収益や景況感の下振れに作用する可能性があり、先行きの不透明感が残る状況が続いております。

このような環境のなかで当社グループは、2016年4月よりスタートした中期経営計画「バリュークリエーション2020」の初年度として、当社グループのDNAである創業者精神『パンチスピリット』を結集し、「販売5極体制の確立」「お客様サービスの向上」「高収益事業の推進とR&D強化」及び「働き方改革」の4つの重点経営課題に取り組んでおります。

日本では前連結会計年度において堅調に推移していた自動車、家電が軟調となっており、前年同期を下回る売上となりました。中国では、減税措置に伴い好調な自動車関連が牽引役となり、前年同期を上回る売上を確保することができました。

この結果、国内売上高は3,845百万円、海外売上高は4,812百万円となり、連結売上高8,658百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

利益面につきましては、売上が増加したことによる利益増の効果はあったものの、日本国内工場の稼働低下による原価率の上昇、研究開発投資などによる販管費の増加等により、営業利益は331百万円（前年同期比30.7%減）、経常利益は330百万円（前年同期比24.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は207百万円（前年同期比38.1%減）となりました。

財政状態についての状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は27,584百万円となり、前連結会計年度末（2016年3月末）と比較し246百万円の増加となりました。これは、主として有形固定資産の増加によるものであります。

総負債は14,064百万円となり、前連結会計年度末（2016年3月末）と比較し726百万円の増加となりました。これは、主として仕入債務の増加によるものであります。

純資産は13,519百万円となり、前連結会計年度末（2016年3月末）と比較し479百万円の減少となりました。これは、主として為替換算調整勘定の減少によるものであります。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上対処すべき課題に重要な変更はありません。

(3)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は76百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2016年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2016年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,061,200	11,061,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	11,061,200	11,061,200	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2016年4月1日～ 2016年6月30日	-	11,061,200	-	2,897,732	-	2,626,732

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2016年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2016年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,060,400	110,604	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	11,061,200	-	-
総株主の議決権	-	110,604	-

【自己株式等】

2016年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けているPwCあらた監査法人は、監査法人の種類の変更により、2016年7月1日をもってPwCあらた有限責任監査法人となりました。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,235,970	3,003,542
受取手形及び売掛金	10,614,598	10,672,682
商品及び製品	1,879,429	1,810,645
仕掛品	464,445	485,408
原材料及び貯蔵品	1,377,177	1,344,526
その他	467,719	534,897
貸倒引当金	163,839	124,456
流動資産合計	17,875,501	17,727,246
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,156,024	5,092,705
減価償却累計額	3,213,649	3,196,252
建物及び構築物(純額)	1,942,375	1,896,452
機械装置及び運搬具	13,721,250	13,502,583
減価償却累計額	9,264,747	9,237,483
機械装置及び運搬具(純額)	4,456,503	4,265,100
工具、器具及び備品	1,829,643	1,894,518
減価償却累計額	1,468,316	1,458,760
工具、器具及び備品(純額)	361,327	435,757
土地	824,752	825,695
建設仮勘定	109,920	648,896
その他	3,234	3,234
減価償却累計額	1,293	1,455
その他(純額)	1,940	1,778
有形固定資産合計	7,696,818	8,073,682
無形固定資産		
のれん	602,058	592,954
その他	720,187	787,408
無形固定資産合計	1,322,245	1,380,363
投資その他の資産		
投資その他の資産	484,229	466,005
貸倒引当金	41,155	63,153
投資その他の資産合計	443,074	402,851
固定資産合計	9,462,138	9,856,897
資産合計	27,337,639	27,584,143

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,860,122	4,305,037
短期借入金	3,062,265	2,395,966
1年内返済予定の長期借入金	488,357	517,788
未払法人税等	209,573	143,664
賞与引当金	445,949	343,709
その他	2,385,010	2,569,314
流動負債合計	10,451,279	11,275,480
固定負債		
長期借入金	1,794,199	1,643,367
その他の引当金	-	4,258
退職給付に係る負債	859,168	904,601
その他	233,546	236,688
固定負債合計	2,886,913	2,788,916
負債合計	13,338,193	14,064,396
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,897,732	2,897,732
資本剰余金	2,626,732	2,626,732
利益剰余金	7,061,816	7,131,169
株主資本合計	12,586,282	12,655,635
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,598,823	1,060,412
退職給付に係る調整累計額	196,617	206,235
その他の包括利益累計額合計	1,402,206	854,176
非支配株主持分	10,958	9,934
純資産合計	13,999,446	13,519,746
負債純資産合計	27,337,639	27,584,143

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
売上高	8,591,976	8,658,183
売上原価	6,203,920	6,330,306
売上総利益	2,388,056	2,327,876
販売費及び一般管理費	1,910,183	1,996,646
営業利益	477,872	331,229
営業外収益		
受取利息	3,358	8,776
作業くず売却益	7,846	6,818
その他	11,522	17,551
営業外収益合計	22,727	33,146
営業外費用		
支払利息	23,465	21,703
その他	38,749	12,435
営業外費用合計	62,214	34,139
経常利益	438,384	330,237
特別利益		
固定資産売却益	1,069	692
投資有価証券売却益	3,244	-
特別利益合計	4,313	692
特別損失		
固定資産除売却損	7,715	5,605
特別損失合計	7,715	5,605
税金等調整前四半期純利益	434,983	325,323
法人税、住民税及び事業税	79,064	99,758
法人税等還付税額	82,973	3,328
法人税等調整額	103,899	22,570
法人税等合計	99,990	119,001
四半期純利益	334,992	206,322
非支配株主に帰属する四半期純損失()	450	1,296
親会社株主に帰属する四半期純利益	335,442	207,618

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
四半期純利益	334,992	206,322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,964	-
為替換算調整勘定	96,404	538,138
退職給付に係る調整額	3,229	9,618
その他の包括利益合計	95,139	547,756
四半期包括利益	239,853	341,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	240,579	340,410
非支配株主に係る四半期包括利益	725	1,023

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

債権流動化に伴う買戻義務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
買戻義務	240,797千円	175,866千円
(債権流動化による受取手形の譲渡高)	(1,617,173千円)	(1,181,102千円)

2 財務制限条項等

前連結会計年度(2016年3月31日)

当社は一部の借入金について、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と財務制限条項が付されたローン契約等を締結しております。契約及び財務制限条項の内容は次のとおりであります。

シンジケート方式によるコミットメントライン契約

当座貸越限度額及び	2,000,000千円
貸出コミットメントの総額	
借入実行残高	-千円
未実行残高	2,000,000千円

上記の契約の借入実行については、以下のとおり財務制限条項が付されており、これらの条項に一つでも抵触した場合、当社は借入先からの通知により、期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

当社の当連結会計年度末における株主資本合計の金額が、前連結会計年度末又は第38期(2012年3月期)末の株主資本合計の金額のいずれか大きい方の75%を下回らないこと。

当社の連結損益計算書において、2期連続経常損失を計上しないこと。

当第1四半期連結会計期間(2016年6月30日)

当社は一部の借入金について、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と財務制限条項が付されたローン契約等を締結しております。契約及び財務制限条項の内容は次のとおりであります。

シンジケート方式によるコミットメントライン契約

当座貸越限度額及び	2,000,000千円
貸出コミットメントの総額	
借入実行残高	600,000千円
未実行残高	1,400,000千円

上記の契約の借入実行残高については、以下のとおり財務制限条項が付されており、これらの条項の一つでも抵触した場合、当社は借入先からの通知により、期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

当社の当連結会計年度末における株主資本合計の金額が、前連結会計年度末又は第38期(2012年3月期)末の株主資本合計の金額のいずれか大きい方の75%を下回らないこと。

当社の連結損益計算書において、2期連続経常損失を計上しないこと。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
減価償却費	343,342千円	334,003千円
のれんの償却額	23,642千円	20,018千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2015年6月24日 定時株主総会	普通株式	165,918	15.0	2015年3月31日	2015年6月25日	利益 剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の 原資
2016年6月22日 定時株主総会	普通株式	138,265	12.5	2016年3月31日	2016年6月23日	利益 剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、金型用部品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	30.33円	18.77円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	335,442	207,618
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四 半期純利益金額(千円)	335,442	207,618
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,061	11,061

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2016年8月9日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行及び株式報酬型ストック・オプションとして当社役員等に割り当てている新株予約権の行使に備えるためであります。

2. 取得に係る事項の内容

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 取得対象株式の種類 | 普通株式 |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 100,000株(上限)(発行済株式総数に対する割合0.9%) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 100百万円 |
| (4) 取得期間 | 2016年8月10日～2016年11月9日 |
| (5) 取得方法 | 信託方式による市場買付 |

(参考) 2016年3月31日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数	11,061,200株
自己株式数	0株

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2016年8月10日

パンチ工業株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 善場秀明 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 戸田 栄 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパンチ工業株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パンチ工業株式会社及び連結子会社の2016年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2016年8月9日開催の取締役会において、自己株式取得に係る事項について決議した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。